

グループディスカッション

<討議テーマ>

- A ポストコロナの海外旅行（復活への課題と対策など）
- B ポストコロナの地方創生（事例報告,取り組み課題など）
- C ポストコロナの働き方（テレワーク,雇用,人材不足,外国人の活用など）
- D ポストコロナに旅行業はいかに生き残るか（差別化,人材確保,経営課題など）



11月例会は、講師を招いてお話を伺う通常のスタイルとは異なり、グループディスカッション形式で行われました。テーマに基づきトラベル懇話会の会員同士が意見を交わしディスカッションすることで、互いに新たな気づきを得ることができたようです。また率直な意見交換は会員間のコミュニケーションの深化にも役立ったのではないのでしょうか。

「もっと議論の場を」の要望に応える

11月例会を始めるに当たり、百木田康二会長が冒頭で挨拶。「以前からトラベル懇話会の会員同士の意見交換や議論の場を



作ってほしいと要望されることがあり、今回はそうした皆さんの声に応える形で例会を開催することにしました」とグループディ

スカッション形式を採用した理由を説明しました。

またこのような形で会員同士が自由闊達な意見交換を行うことはトラベル懇話会の持つ大きな価値のひとつであることは会員間のコンセンサスになっているものでもあります。さらに「講演会を通じた勉強会および会員相互の情報交換・懇話の場に加えて、会員の発言機会を増やしていく」という今期の事業計画に沿った取り組みであるとも言えます。

4つのテーマを各テーブルで議論

今回、ディスカッションのテーマとして設定されたのはテーマA「ポストコロナの海外旅行」、テーマB「ポストコロナの地方



創生、テーマC「ポストコロナの働き方」、テーマD「ポストコロナに旅行業はいか

るという高難度の技に挑戦。全10テーブルの報告が、ほぼ予定通りの20分に収まりました。



今後もディスカッションの場を予定

百木田会長は「業界全体の課題となっている人手不足問題を含め、さまざまな課題があります。それだけに今回のようにトラベル懇話会で議論を交わし、問題解決に向けた提案をおこなっていくことがより重要になって来ると思います」と総評を述べ



「今後も、こうしたディスカッションの場を積極的に用意していきたいと考えています」と11月例会を締めくくりました。



に生き残るか」の4つ。

参加者を6~7人ずつ10テーブルにグループ分けして、それぞれのテーマでディスカッションを行いました。時間は約40分。各テーブルで仕切り役のファシリテーターをあらかじめ決めておき、開始と共にテーマに沿ってスムーズに意見交換が始まりました。最後の総評で百木田会長が「皆さんお話が好きですね」と思わず感想を漏らすほど、会員全員が自ら活発に意見を述べる40分間となりました。

ディスカッション後は各テーブルの代表者が、議論内容をわずか2分間で報告す

<各テーブルの報告者>



左上から順に：武藤氏、宇井氏、守家氏、寺坂氏、福井氏、六反氏、岡田氏、妙智氏、松浦氏、坪内氏



